

# 令和5年度学校自己評価システムシート (県立川口工業高等学校【単位制による定時制の課程】)

目指す学校像	地域産業の発展に寄与できる、心豊かな人間の育成を図る。
--------	-----------------------------

重点目標	1 生徒の実態に応じた授業の工夫・改善を進め、工業高校生としての基礎力を着実に向上させる。 2 充実した学校生活と進路実現のために、生徒指導及び進路指導の充実を図る。 3 地域との連携を深めると共に、工業高校生としての取組を積極的に発信することで開かれた学校づくりを目指す。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度

学 校 関 係 者 評 価			
実施日	令和	年	月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等			

1	【基礎力向上の取組みの継続】 生徒個々に応じた授業改善や日本語支援員・学習サポーターを活用したサポート体制などの取組みにより、生徒の授業への参加意欲も向上し、欠点保有者・成績不振者も減少傾向にある。今後もこれまでの取組みを継続し、ICT活用や授業改善を進めることで、主体的・積極的に学習する態度を育成することが課題である。	生徒の授業への参加意欲を高めることができたか。	日本語支援員や学習サポーターを活用し、日本語の苦手な生徒や苦手科目のある生徒に対する指導を充実させる。	・成績不振による進路変更をする生徒0名(昨年度0名) ・成績不振者(欠点保有者)の減少(昨年度18%)		
		生徒個々に応じたわかる授業を展開することができたか。	生徒のタブレット活用など新たなICT活用に取り組み、観点別評価による授業改善を進める。	・成績優良者の増加(昨年度25%) ・教員の「授業にICTを活用して指導する能力」に対する自己評価の向上		
2	【全教職員で取り組む生徒指導・キャリア教育の継続】 教職員が一丸となった凡事徹底を継続する生徒指導により、高校生としての基本的な生活習慣が浸透しつつある。 入学時において、具体的な進路目標を持たない生徒が少なくない。キャリア教育を充実させることで早い時期に具体的な進路目標を持たせる必要がある。	生徒が高校生としての基本的な生活習慣が身につけ、充実した高校生活を送ることができたか。	家庭・地域との連携・情報共有により、凡事徹底を継続する生徒指導を継続し、欠席や遅刻することなく、充実した学校生活を送らせる。	毎月実施する遅刻者指導を受ける生徒の減少(昨年度1日平均2.37人)		
		生徒が具体的な進路目標を持ち、その実現に向けて活動できたか。	年間を通して、キャリアパスポートの活用や、外部の教育力と連携したキャリア教育の充実を図り、生徒の進路意識を向上させる。	・進路希望調査において、具体的な進路希望を持つ生徒の増加 ・4年次生の卒業時における全員の進路先決定		
3	【積極的に取り組む保護者・地域との連携】 コロナ禍で制限のあった教育活動は、制限が少ない状況で実施可能となることが想定される。 保護者・地域に本校定時制の教育活動を理解いただくため、日常の情報発信と、地域に貢献・還元するイベントの実施を積極的に進めていく必要がある。	保護者や地域へ本校の教育活動を積極的に情報発信し、理解を高めることができたか。	学校行事や学年行事等の日常の教育活動を中心に、ホームページ等で定期的に情報発信する。	・本校ホームページの閲覧数の増加(昨年度6%増) ・本校ホームページへの投稿・記事更新数の増加		
		地域に貢献・還元するイベントを積極的に行うことができたか。	全日制や外部の学校説明会、「かわこうざ」「子ども大学かわぐち」など、地域の方が参加できるイベントを積極的に行う。	・学校説明会等への参加者の増加 ・地域イベントへの参加者の増加		
